

DIGITABLE 第 37 回勉強会レポート

2010年6月19日 於：森下文化センター 第四研修室



デジタルフォト基礎講座 4 「パソコン画像処理入門②」：高木大輔 講師
参加者全員による “ライトニングトーク Vol.4” (持ち時間 5 分のショートトーク)
Photoshop 研究講座 「スタジオ撮影での色温度」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

デジタルフォト基礎講座 4 「パソコン画像処理入門②」：高木大輔 講師

Photoshop Elements のスタンダード編集

Photoshop Elements はデジタル画像処理の入門に最適だ。基礎的な使い方をマスターすることによって、他の画像ソフトのしくみも理解できるようになる。まずは Photoshop Elements で作品の調整やプリントの基礎を学びながら、デジタルの楽しさを味わってみよう。

色補正の基本的手順

行き当たりばったりの補正を繰り返しては画像はどんどん荒れてしまう。画像の劣化を最小限度にして色補正を行うために、補正の手順を理解しよう。Photoshop Elements の場合、①レベル補正、②カラーカーブ、③色相・彩度、④オプションでノイズを加える、と進むのがよいだろう。

レベル補正

レベル補正は画像調整の基本中の基本だが大きな補正は画像の劣化をまねき易い。ウインドウ画面の波形の変化に注意しながら、ヒストグラムが櫛抜けにならないように注意しよう。また習熟すれば各チャンネルごとの調整で、カラーバランスの調整も可能だ。(=レベル補正で色温度の補正も可能)

カラーバランスを補正

スポイトを使ったグレーバランスツールで、白やグレーにしたいターゲットをクリックする。カラーチャートやグレーボードが理想的だ、スナップや風景でも利用できるターゲットをうまく探してみよう。

※注) Photoshop の [カラーバランス] 機能とは異なる

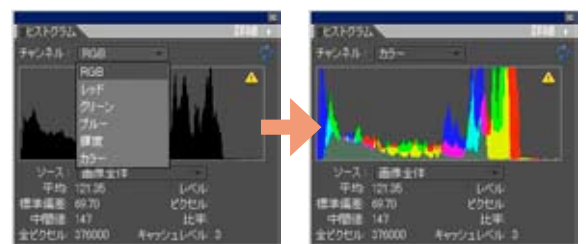
カラーカーブ

続いて必要に応じて、[カラーカーブ] でコントラストと明るさの微調整を行う。上記で目標のコントラストになっていればここは無理に補正する必要はない。

彩度の微調整・ノイズで画像を整える

色味調整の基本となるべきツールで、極めて重要。色ごとの調整ばかりでなく、明るくすると彩度も落ちることが多いのでそれらの微調整にも有効だ。調整でデータが櫛抜けになった画像は、彩度の微調整・ノイズでヒストグラムがかなり改善する。

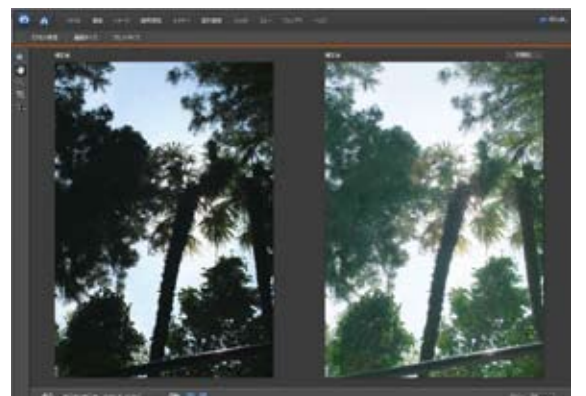
(コメントや意見の追加をお願いします)



Photoshop Elements のヒストグラムの表示は初期設定では RGB の総合だが、各チャンネルごとの表示も可能



カラーバランスツールで、「白目」をクリック
全体のホワイトバランスが見事に整った



大きな調整でデータが櫛抜けになった画像は、彩度の微調整・ノイズでヒストグラムがかなり改善する

参加者全員による“ライトニングトーク” (持ち時間5分のショートトーク)

当勉強会のメインイベントに成長した会員によるショートトーク。今月もいくつかの要旨をピックアップする。SR氏からはユーチューブ投稿の報告。静止画によるストップモーションなども練習中?とのことである。

KM氏は大連旅順ツアーの報告。三泊四日の駆け足ツアーとのことだが、本科での発表も期待したい。

新入会員のIB氏は横浜の名門女子大での施設改修写真というユニークな視点。

HR氏はライフワークのデジタルアーカイブから、濱谷浩の写真集紹介。「一億画素に挑戦…」とのステッチング撮影?の予告もあった。

AY氏は色相彩度の研究その後。勉強会“本科”での発表の機会も近いようである。

ST氏は埼玉鶴ヶ島で四年に一度行われている龍神祭の報告。享保年間に“雨乞い”で始まったそうだが、全て藁の手作りによる龍神は、祭り終了後その場で解体して(往時は貴重な燃料として)燃やしてしまうなど、生活に根付いた素朴な祭典の様相が現代では何ともユニークで、会員たちの話題を浚った。

… 等々である。

(コメントや意見の追加をお願いします)

Photoshop 研究講座 「スタジオ撮影での色温度」平野正志 講師

通常スタジオでのストロボ撮影では、デジタルカメラのWB設定はストロボ、雷マークにして撮影していたが、どうも画面が黄色味がかかる傾向がある。NikonD300、Canon40Dで比較テストした。黄色味がかかる原因は、WBで設定された色温度と光源である光の色温度の差が原因ではなからうかということだ。一応に黄色味がかって見えることが分かったら、ストロボの発光の色温度自体は、両方のカメラに設定した数値より、さらに低いということが考えられる。

色温度を数値指定して撮影では両社とも各段階によるバラつきはあったが、5000Kあたりがノーマルな色調を示すようだ。

ストロボの光量調整では明るさに差が出たため、FULL発光のR、G、B、それぞれの18%グレー数値を基準にその他の値を調整した。(輝度情報の元になるGの値にR、Bの値をそろえるように調整する)

発光部の個体差がどの程度あるのかも試してみる。ヘッドだけを交換して同一条件で撮影した。驚いたことに、数値を見るまでもなく見た目だけでも大きな違いが出てしまった。多灯ライティングなども苦慮すると、やはり単純に色温度設定でK値を設定するよりは、プリセットでその場の状況を撮影し、参考値にした方が、個体差をも吸収して設定できて確実だろう。

(コメントや意見の追加をお願いします)

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>



大型ストロボを使ったスタジオ撮影の様相



テストに使用したターゲット画像
ストロボマークに合わせた設定では、Nikon、Canon 両社共に黄色味がかかった色調に仕上がった



今月の1枚：埼玉鶴ヶ島で四年に一度行われている龍神祭
享保年間に“雨乞い”で始まったそうだが、藁の手作りによる龍神は現代では何ともユーモラスでユニーク